

「工事における現場環境改善費」試行要領

1 目的

近年、住民の協力を得て工事を円滑に進めるうえで、地域との連携を図ることが重要になっている。また、建設労働者不足が深刻化するなかで労働者の作業環境を改善することは、必要な労働者を確保し事業を円滑に推進するうえでも、不可欠な条件となってきた。

工事における現場環境改善は、これらを踏まえて、地域との積極的な連携を図りつつ、そこで働く関係者の意識を高めるとともに、関係者の作業環境を整えることにより、公共事業の円滑な執行に資するものである。

2 適用の範囲

周辺住民の生活環境への配慮及び一般住民への建設事業の広報活動、農家との調整、現場労働者の作業環境の改善を行うために実施するもので、原則、農業農村整備事業における全ての屋外工事を対象とする。ただし、施設機械工事（電気通信設備工事、鋼橋架設工事は除く）、建築工事及び実施が困難又は効果が期待できない工事については対象外とすることができる。

※実施が困難な工事・・・災害復旧工事、維持修繕工事 等

※効果が期待できない工事・・・工期が1ヶ月未満など工期の短い工事 等

3 実施内容

受注者は別表の実施する内容を計上項目（仮設備関係、営繕関係、安全関係、地域連携）ごとに1内容以上選択し、合計5つの内容を実施する。

ただし、他の要領等によって定められている内容については、現場環境改善費では対象としないものとする。

4 実施方法

（1）発注時

発注者は現場環境改善に要する費用を当初設計から計上するものとする。また、実施内容を別添「特別仕様書記載例」を参考に契約図書に明示するものとする。

（2）施工計画書による実施計画の提出

受注者は現場環境改善の実施内容、実施時期について施工計画書に含めて提出するものとする。

（3）実施報告

受注者は工事完成時に現場環境改善の実施状況写真を監督員に提出すること。

(4) 変更または中止の協議

施工計画書に記載した実施内容等について、現場状況の変化等により実施が困難となった場合は、工事打合簿により監督員と協議のうえ、内容の変更または中止することができる。

(5) 工事成績評定

本要領に基づき実施した内容について、工事成績評定の加点対象としない。

なお、現場環境改善の実施が困難になった場合、これを理由とした工事成績評定減点を行わない。

5 積算方法

発注者は下記の算出式から現場環境改善費を算出し、共通仮設費に計上する。

ア 算出方法は以下のとおりとする。

算出式

$$K = i \cdot P_i$$

ただし、K：現場環境改善費（単位：円、1,000 円未満切り捨て）

i：現場環境改善費率（単位：% 少数第3位四捨五入2位止め）

P_i：対象額（直接工事費「処分費等を除く」＋支給品費＋官貸額）

対象額：P _i		現場環境改善費率：i (%)
直接工事費 (処分費等を除く) ＋ 支給品費 ＋ 官貸額	5億円以下の場合	$i = 85.6 \cdot P_i^{-0.2987}$
	5億円を超える場合	0.22

イ 計上されるものは、別表の実施する内容のうち、計上項目（仮設備関係、営繕関係、安全関係、地域連携）をそれぞれ1内容以上選択し、合計5つの内容を実施することを基本とした費用である。

ウ 現場環境改善費率は現場環境改善費の各費目を1本化した全体の率である。

エ 現場環境改善に関する費用の対象額は5億円を限度とする。

オ 協議により現場環境改善を実施しない場合は、変更の対象とする。

6 その他

本要領に定めのない事項又は本要領に関して疑義が生じたときは、監督員と受注者で協議のうえ、これを定めるものとする。

附 則

この要領は令和3年2月15日以降に決裁に係る工事から適用する。

【別表】

計上項目	実施する内容（率計上分）
仮設備関係	用水・電力等の供給設備 緑化・花壇 ライトアップ施設 見学路及び椅子の設置 昇降設備の充実 環境負荷の低減
営繕関係	現場事務所の快適化（女性用更衣室の設置を含む） 労働者宿舎の快適化 現場休憩所の快適化 健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	工事標識・照明等安全施設のイメージアップ（電光式標識等） 盗難防止対策（警報器等） 避暑（熱中症予防）・防寒対策
地域連携	地域対策費（農家との調整等、地域行事等の経費を含む） 完成予想図 工法説明図 工事工程表 デザイン工事看板（各工事PR看板含む） 見学会等の開催（イベント等の実施含む） 見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 パンフレット・工法説明ビデオ 社会貢献